

国語分科会における審議状況と今後の課題

1. これまでの審議状況

- 文部科学大臣から文化審議会への諮問「情報化時代に対応する漢字政策の在り方について」（平成17年3月30日）を受け、国語分科会及び漢字小委員会において、現行常用漢字表の見直しについて審議。平成22年5月19日の国語分科会において、「改定常用漢字表」に関する答申案について了承。
- 日本語教育小委員会においては第8期（平成20年2月～21年2月）において、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の体制整備及び内容の改善について審議を行い、国、都道府県、市町村がそれぞれ担うべき役割等を示すとともに、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的な内容の大枠について検討。
- 第9期（平成21年2月～22年2月）及び第10期（平成22年2月～現在）においては、第8期に行った「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的な内容についての検討を深め、平成22年5月19日の国語分科会において、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について了承。

2. 今後の課題

- 日本語教育小委員会においては、標準的なカリキュラム案を基にした教材例の作成、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の指導方法、「生活者としての外国人」の日本語能力の評価、日本語指導者の指導力の評価について検討を行う予定。